

久留米市地場企業景況調査レポート(平成23年7月～9月期調査分)

＜調査目的＞

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

＜調査対象＞

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

＜調査要領＞

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

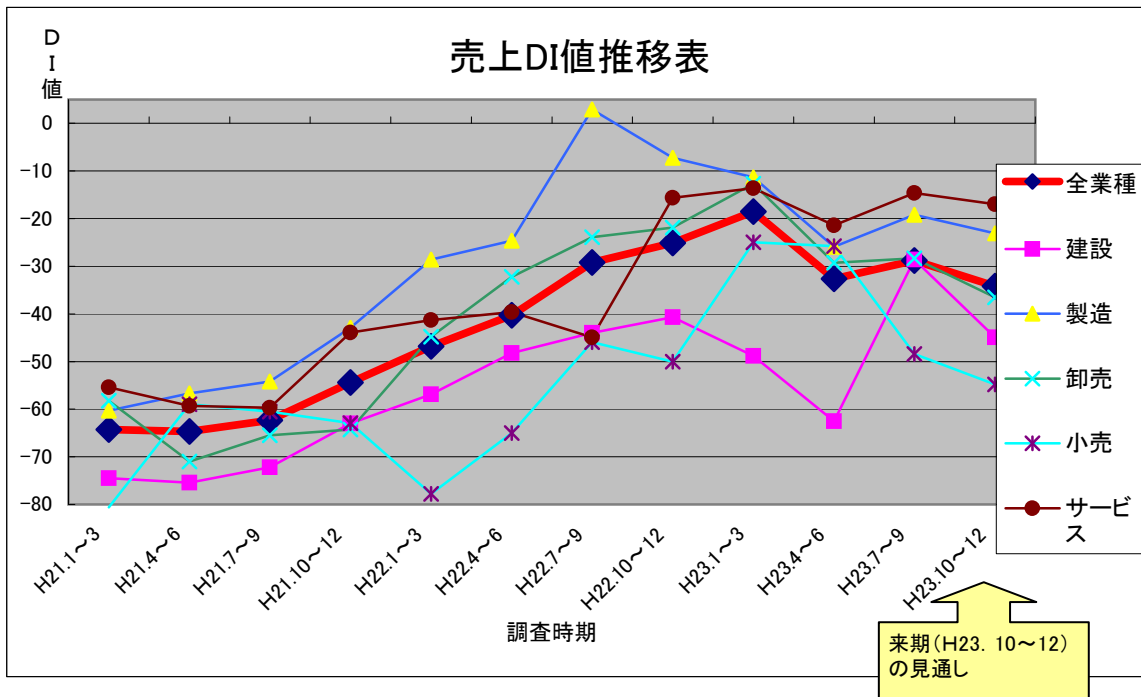
＜DI値とは＞

DI(ディーアイ。Diffusion Index: 景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

＜平成23年7月～9月期調査分回収結果＞

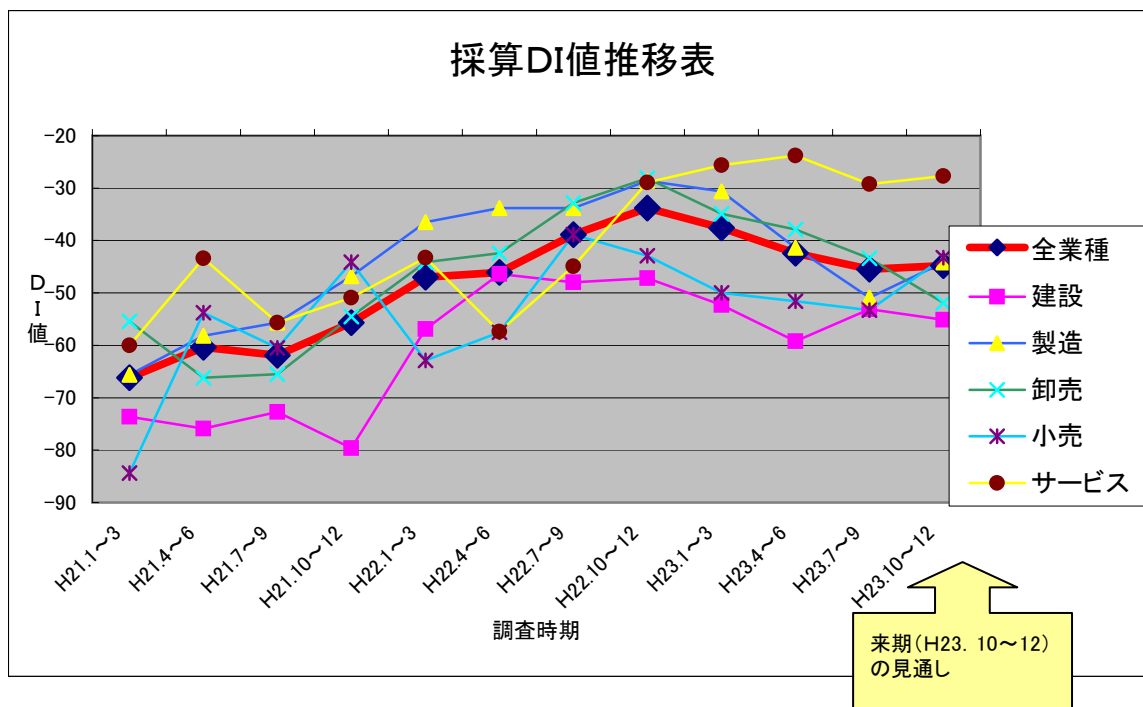
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	236	39.3%
建設業	120	49	40.8%
製造業	120	54	45.0%
卸売業	120	53	44.2%
小売業	120	32	26.7%
サービス業	120	48	40.0%



今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「**売上面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は54社(前期比4社増)、「減少した」と回答した企業は121社(前期比6社減)、「横ばいである」と答えた企業は58社(前期比1社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は縮小して▲28. 8となり、前期比で3. 8P好転した。

業種別に見ると、建設業▲28. 6(前期比33. 9P好転)、製造業▲19. 2(前期比6. 7P好転)、卸売業▲28. 3(前期比1P好転)、小売業▲48. 4(前期比22. 6P悪化)、サービス業▲14. 6(前期比6. 8P好転)となった。

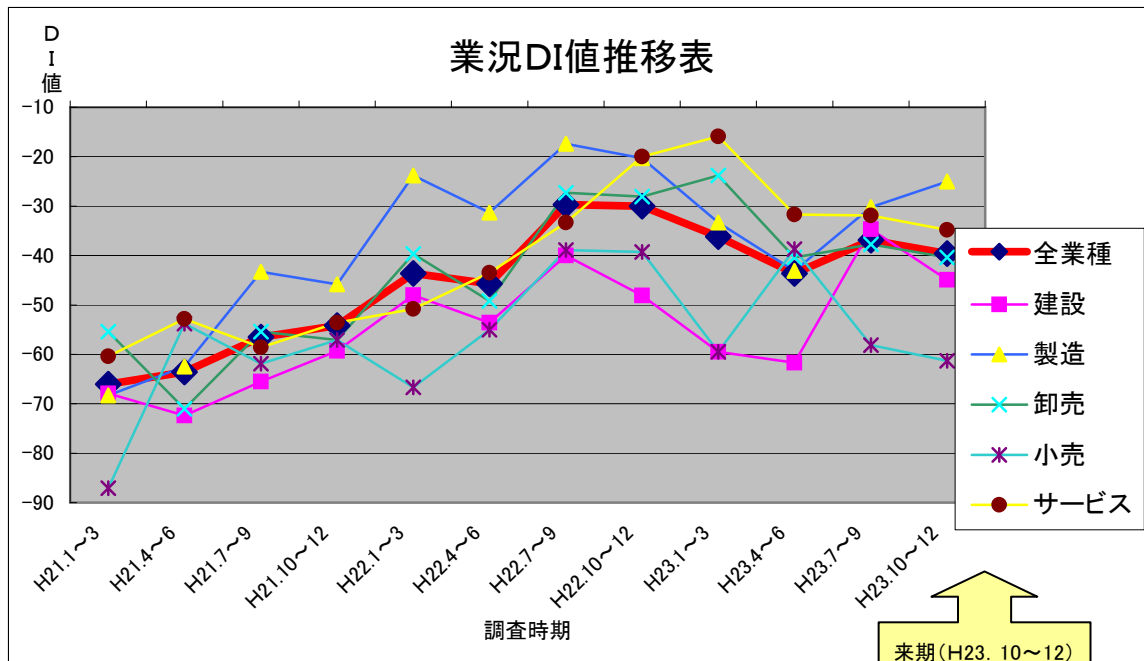
来期(H23. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲34. 2と2. 2P好転する見込み。



今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「**採算面**」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は22社(前期比6社減)、「悪化した」と回答した企業は128社(前期比1社減)、「横ばいである」と答えた企業は83社(前期比2社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は拡大して▲45. 5となり、前期比で3. 1P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲53. 1(前期比6. 1P好転)、製造業▲50. 9(前期比9. 5P悪化)、卸売業▲43. 4(前期比5. 5P悪化)、小売業▲53. 3(前期比1. 9P悪化)、サービス業▲29. 2(前期比5. 4P悪化)となった。

来期(H23. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲44. 8と、3. 5P悪化する見込み。

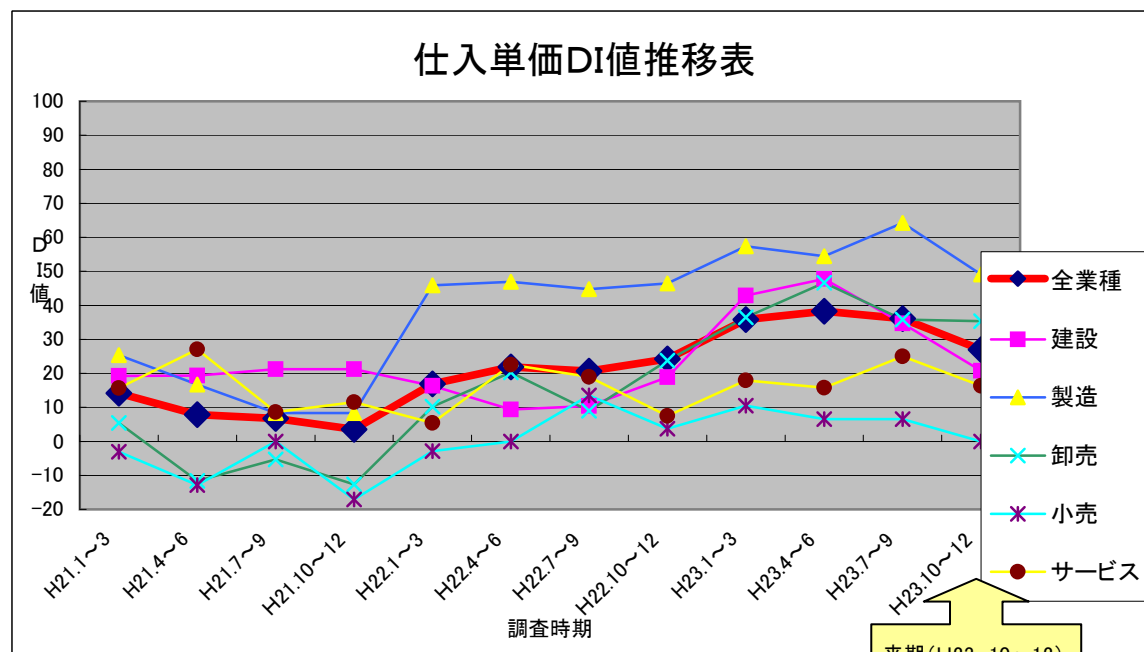


来期(H23. 10~12)の見通し

今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「業況面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は5社(前期比社増)、「悪化した」と回答した企業は110社(前期比13社減)、「横ばいである」と答えた企業は99社(前期比5社増)であった。DI値を見ると、▲36.9となり、前期比で6.7P好転した。

業種別に見ると、建設業▲34.7(前期比27P好転)、製造業▲30.2(前期比12.9P好転)、卸売業▲37.7(前期比2.7P好転)、小売業▲58.1(前期比19.4P悪化)、サービス業▲31.9(前期比0.2P悪化)となった。

来期(H23. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲39.6と、1.9P好転する見込み。



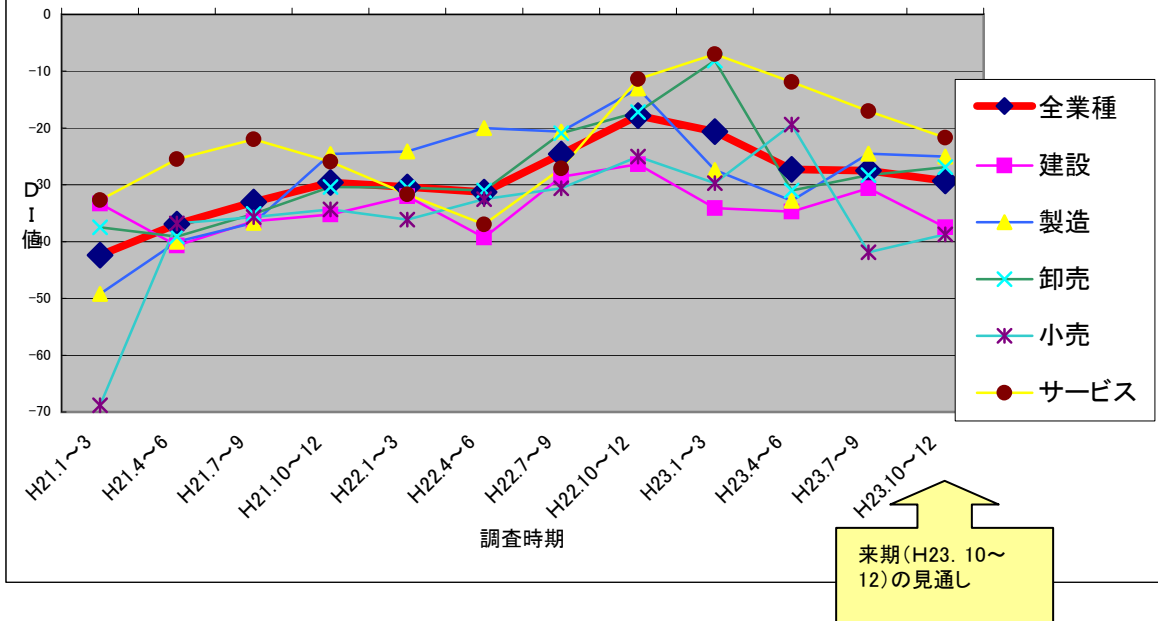
来期(H23. 10~12)の見通し

今期(H23. 7~10)の久留米市地場企業景況調査で「仕入単価面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は96社(前期比11社減)、「低下した」と回答した企業は13社(前期比6社減)、「横ばいである」と答えた企業は121社(前期比17社増)であった。DI値を見ると、36.1となり、前期比で2.2P好転した。

業種別に見ると、建設業34.7(前期比13.1P好転)、製造業64.2(前期比9.8P悪化)、卸売業35.8(前期比10.8P好転)、小売業6.5(前期比0P横ばい)、サービス業25.0(前期比9.2P悪化)となった。

来期(H23. 10~12)の見通しでは全業種DI値は27.0と、9.0P好転する見込み。

資金繰りDI値推移表

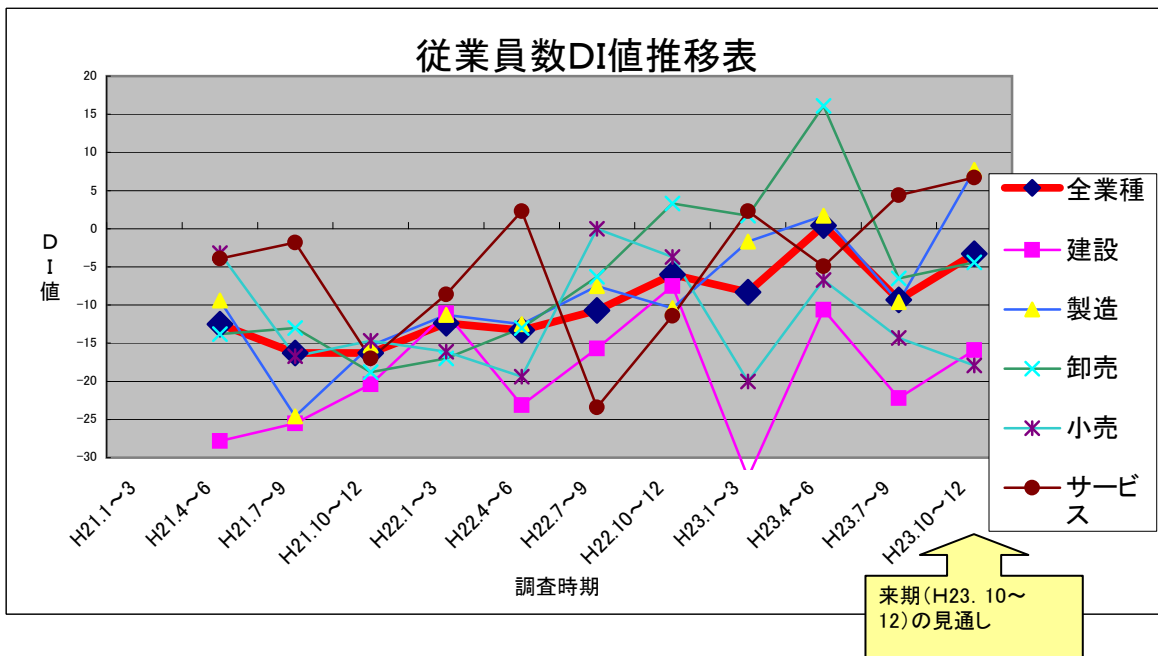


今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「資金繰り面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は17社(前年比2社増)、「悪化した」と回答した企業は81社(前期比1社増)、「横ばいである」と答えた企業は135社(前期比8社減)であった。DI値を見ると▲27.5となり、前期比で0.5P悪化した。

業種別に見ると、建設業▲30.6(前期比4.1P好転)、製造業▲24.5(前期比8.3P好転)、卸売業▲28.3(前期比2.8P好転)、小売業▲41.9(前期比22.5P悪化)、サービス業▲17.0(前期比5.1P悪化)となった。

来期(H23. 10~12)の見通しでは全業種DI値は▲29.3と、1.8P好転する見込み。

従業員数DI値推移表

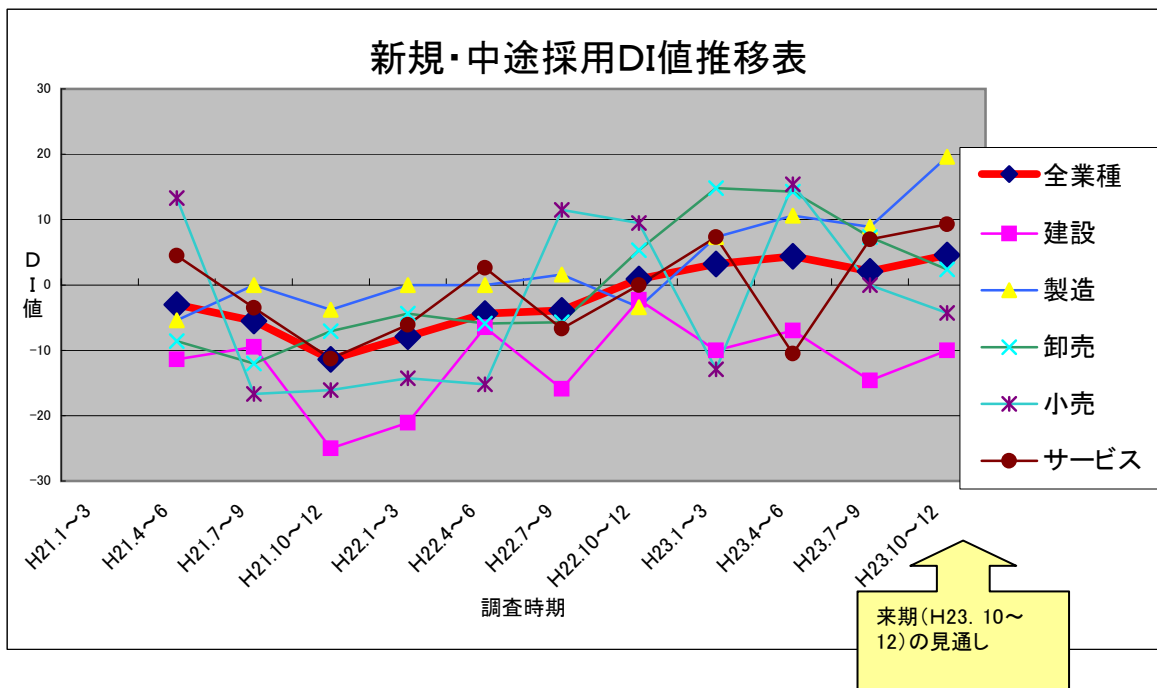


今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「従業員数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は28社、「減少した」と回答した企業は48社、「横ばいである」と答えた企業は140社であった。DI値は▲9.3となった。

業種別に見ると、建設業▲22.2、製造業▲9.6、卸売業6.5、小売業▲14.3、サービス業4.4となった。

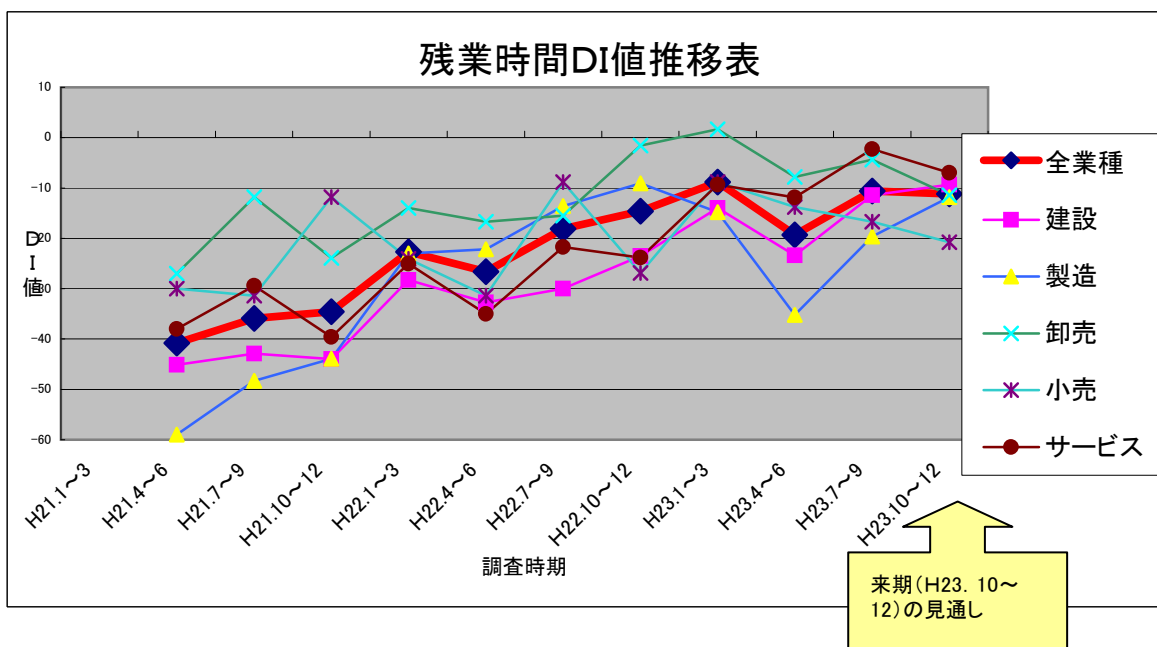
来期(H23. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲3.3となる見込み。業種別に見ると、建設業▲15.9、製造業▲7.7、卸売業4.4、小売業17.9、サービス業▲6.7となる見込み。

新規・中途採用DI値推移表

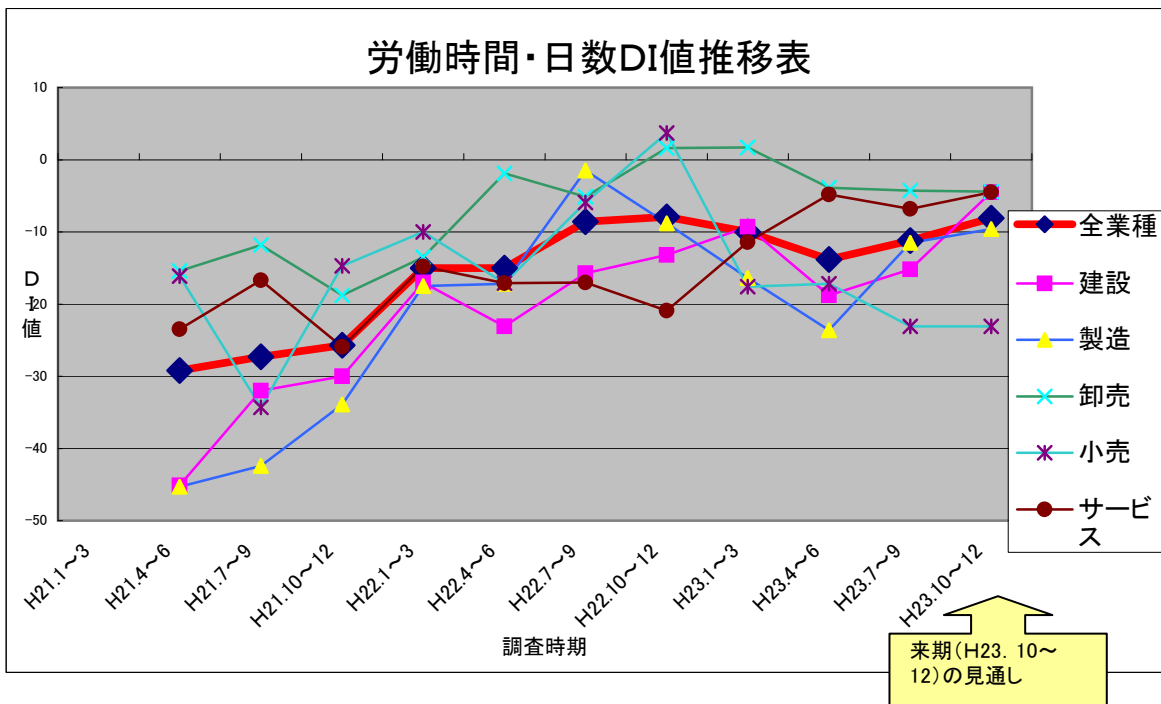


今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「新規・中途採用面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は23社、「減少した」と回答した企業は19社、「横ばいである」と答えた企業は152社であった。DI値は、2.1となった。
業種別に見ると、建設業▲14.6、製造業8.9、卸売業7.3、小売業0.0、サービス業▲7.0となった。
来期(H23. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲4.6となる見込み。業種別に見ると、建設業▲10.0、製造業19.6、卸売業2.4、小売業▲4.3、サービス業▲9.3となる見込み。

残業時間DI値推移表



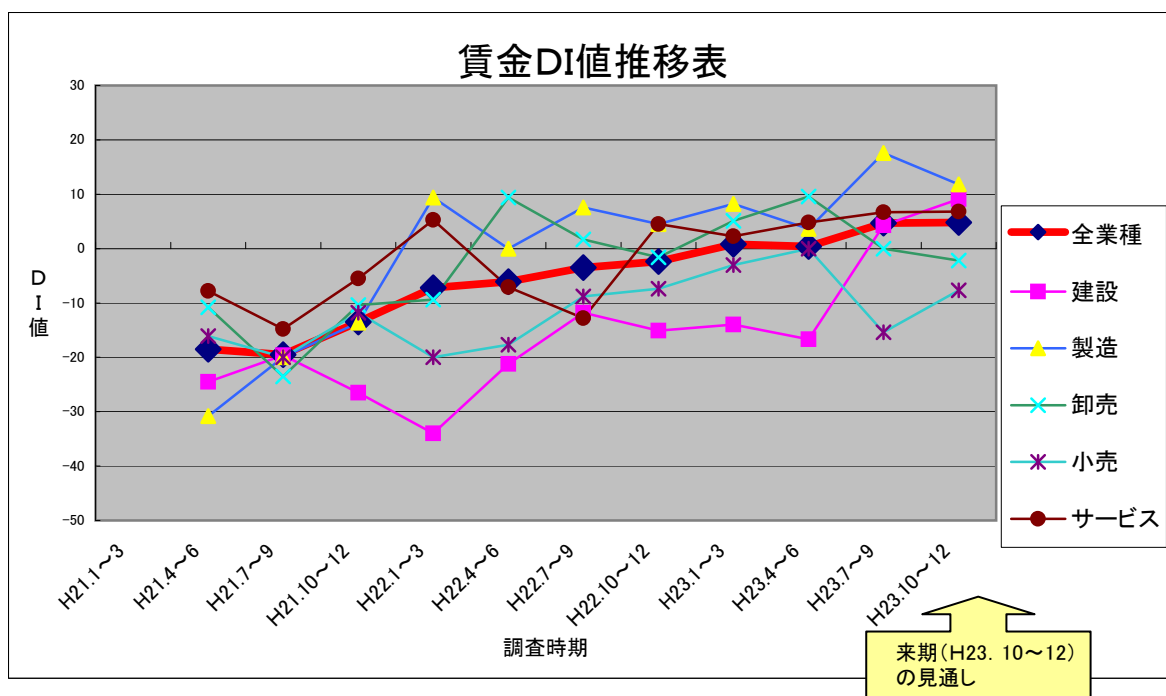
今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「残業時間面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は29社、「減少した」と回答した企業は51社、「横ばいである」と答えた企業は127社であった。DI値は▲10.6となった。
業種別に見ると、建設業▲11.4、製造業▲19.6、卸売業▲4.4、小売業▲16.7、サービス業▲2.3となった。
来期(H23. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲11.2となる見込み。業種別に見ると、建設業▲9.3、製造業▲11.8個、卸売業▲11.4、小売業▲20.8、サービス業▲7.0となる見込み。



今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「労働時間・日数面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は15社、「減少した」と回答した企業は39社、「横ばいである」と答えた企業は160社であった。DI値は▲11.2となった。

業種別に見ると、建設業▲15.2、製造業▲11.5、卸売業▲4.3、小売業▲23.1、サービス業▲6.8となった。

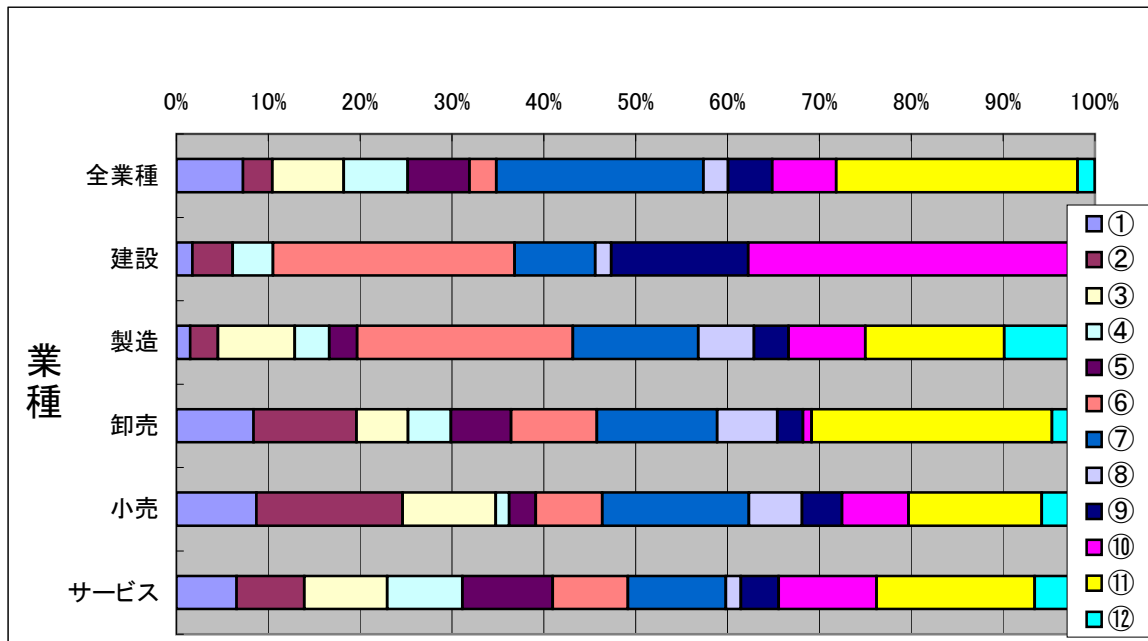
来期(H23. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は▲8.1となる見込み。業種別に見ると、建設業▲4.5、製造業▲9.6、卸売業▲4.4、小売業▲23.1、サービス業▲4.5となる見込み。



今期(H23. 7~9)の久留米市地場企業景況調査で「賃金面」での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は39社、「減少した」と回答した企業は29社、「横ばいである」と答えた企業は146社であった。DI値は4.7となった。

業種別のDI値では、建設業4.3、製造業17.6、卸売業0.0、小売業▲15.4、サービス業6.7となった。

来期(H23. 10~12)の見通しでは、全業種DI値は4.8となる見込み。業種別に見ると、建設業9.1、製造業11.8、卸売業▲2.2、小売業▲7.7、サービス業6.8となる見込み。



①大企業の進出による競争の激化 ②同業者の進出 ③消費者ニーズへの対応 ④人件費の増加 ⑤人件費以外の経費の増加 ⑥仕入単価の上昇 ⑦販売価格の低下 ⑧金利負担の増加 ⑨事業資金の借入難 ⑩従業員の確保難 ⑪需要の停滞 ⑫その他
 今期(H22. 7～9)の経営上の悩みとしては、「需要の停滞(26. 3%)」「販売価格の低下・上昇難(22. 5%)」を指摘する声が多く寄せられている。
 特に、「需要の停滞」は建設業(33. 6%)、製造業(15. 2%)、卸売業(26. 2%)、小売業(14. 5%)サービス業(17. 2%)と全業種で意見が集中した。

<事業所から寄せられた主なコメント>

【建設業】

請負単価の下落で経営難
 工事の受注量が激減し、厳しい状況が続いている
 請負金額の低下により、仕事をしていても利益がでない

【製造業】

昨今の経済状況を見ると設備投資に踏み込めない
 短期の注文はあるが、長期(3ヶ月以上)の受注の見通しが無い
 取引先の倒産が多く、経営にかなり響いている

【卸売業】

大手は安く販売するが、後のメンテナンスが出来ていないと感じる
 取引メーカーが大手メーカーに吸収合併されて、取引見直しを迫られ仕入困難になっている

【小売業】

スタッフの高齢化により消費者ニーズとのギャップを感じる
 異常気象によりいつまでも涼しくならず秋物衣料品の売上が伸びない
 今期はテレビ放送の地デジ化で売上が増加した分、来期は期待できない

【サービス業】

年々経営が悪化している
 業界全体が低迷しており、良い会社と悪い会社の格差を感じる
 新分野への進出を考えている